



明化の教育

4月号（第444号）
平成29年4月6日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹

平成29年度の初めにあって

校長 溝畑 直樹

本日、43名の1年生を迎え、全校児童310名で平成29年度がスタートしました。始業式では、新しい学年での生活を思い、期待に胸ふくらませる子供たちの晴れやかな姿がありました。学校を預かる者として、日々の充実した学校生活の中で、一人ひとりの子供たちを確かな成長へと導く責任を強く感じたところです。

教育目標

明化の子どもはやり通す

- やり通す ころとからだ
- 人のため 進んでだせる ことばと力
- 気づき 考え つくり出す力

この教育目標の実現に向け、今年度は「子供のためにやり通す学校 ―自らが主体者となって生きる力を育む『明化ブランド』の教育の推進―」を、学校経営の基本方針として掲げ、全力で教育活動に取り組んで参ります。

こうして改めて本校の教育目標を読み返すと、「なるほど、よくできている」と感心します。この教育目標は、今から40数年前、第18代の佐々木定夫校長先生が定められたものと聞いています。国語の専門家でいらっしゃった佐々木校長先生らしく、リズムがあり子供たちにも親しみやすい文です。何より素晴らしいことは、その中身が40数年の時を経た現在でも、小学校教育の目標としての輝きを微塵も失っていないことです。その秘密は、「明化の子どもはやり通す」の一文にあるのだと思います。もうお気づきでしょう。

この一文には「何をやり通すのか」その目的が示されていないのです。つまり、「自らがやり通すことは、自分自身で決めなさい。」とこの一文は私たちに諭しているのです。どんなに時代が変わっても、自分の生きていく目的は、自分自身で決めなくてはなりません。これこそが人間らしく生きるということです。月曜日の朝、静心の鐘の音と共に「明化の子どもはやり通す」と子供たちが声に出すとき、どの子供の心の中にも「自分は何をやり通すのか」がはっきりと分かっている、そんな1年間にしていきたいと思っています。

平成29・30年度の2年間にわたり、本校は東京都の人権尊重教育推進校として指定を受けました。全ての教育活動を通して、人権尊重の精神を培い、どの命も等しく大切にし、あらゆる差別や偏見、いじめを許さない、より良い人間関係を築ける自立した子供たちを、保護者、地域の皆さま方と学校とが緊密な連携を図りながら育てて参りたいと思います。

これまで本校が大切にしてきた諸活動に加え、新たな課題に正対しこれを解決するための活動を取り入れながら、本年度も裏面のスタッフと共に一步一步進んで参ります。開校143年目を迎えた明化小学校に、本年度もみなさまのご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。